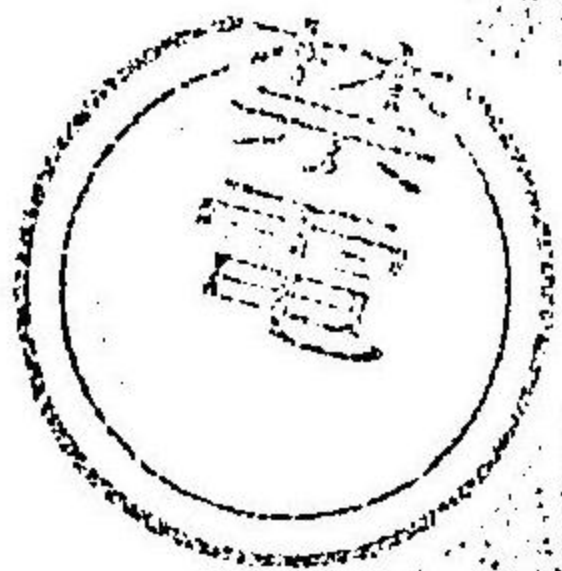
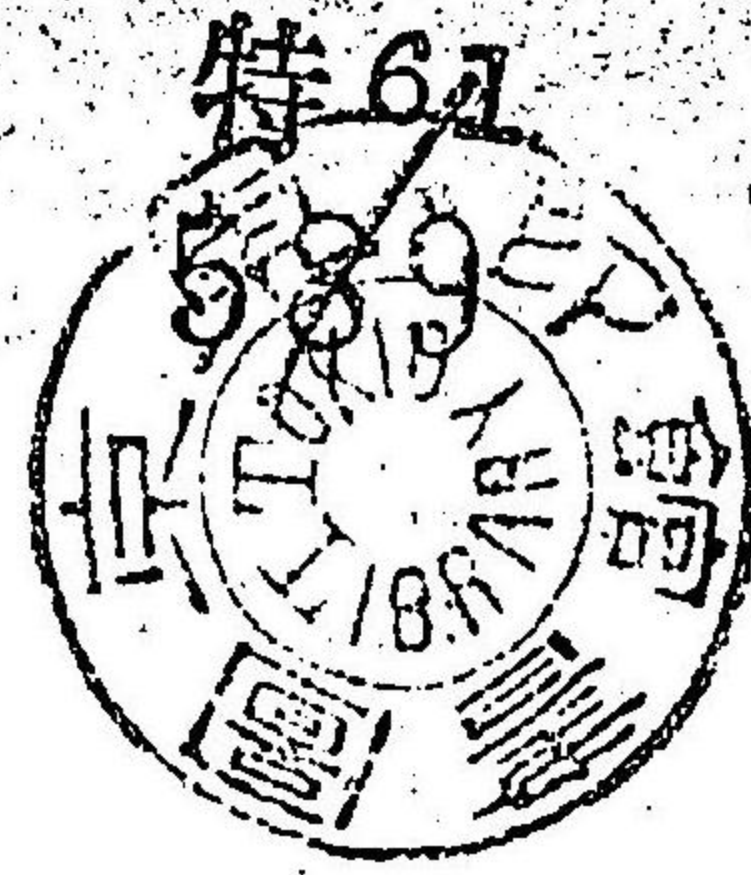


CZ  
212  
030



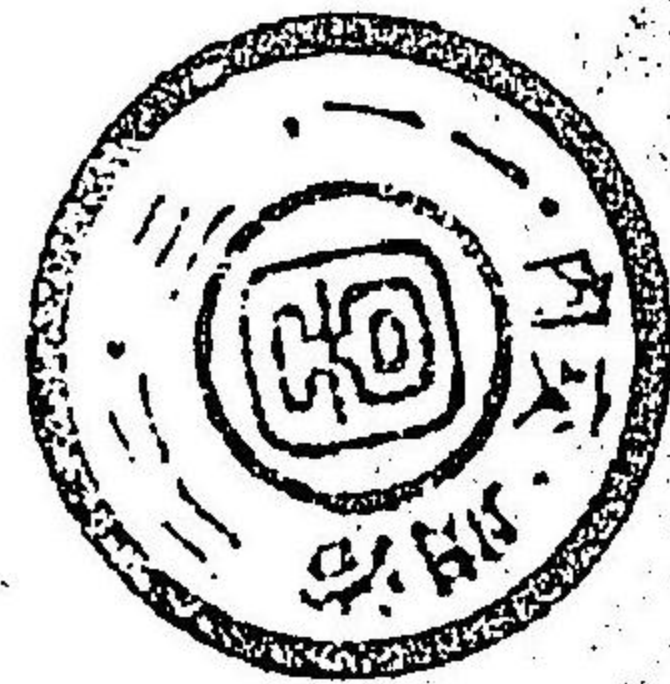
大泉憲法  
附錄

雲根堂梓



No. 15595

大日本帝國憲法



212  
030

### 憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ  
中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ  
大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ  
此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス  
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先  
ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ  
以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナ  
ル祖宗ノ威德ト並ニ臣民ノ忠實勇敢

ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光  
輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕  
我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民  
ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕ガ意ヲ奉  
體シ朕ガ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同  
シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚  
シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシム  
ルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ  
堪フルユトヲ疑ハサルナリ

告文

皇朕ノ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕ノ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條

章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此ノ皆皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無  
シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將  
來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ  
愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾クハ  
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕ガ親愛ス  
ル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ  
臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達  
セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼賛ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ  
進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十四日  
ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕ガ率由スル所ヲ示  
シ朕ガ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者チシテ永遠ニ循  
行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳  
フル所ナリ朕及朕ガ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ  
之ヲ行フコトヲ愆ラザルベシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護  
シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラ  
シムベキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時テ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスベシ將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜キ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕ガ子孫及臣民ハ敢テ之ガ紛更ヲ試ミルコトヲ得ザルベシ朕ガ在廷ノ大臣ハ朕ガ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フベシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 內閣 總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院 議長 伯爵伊藤博文
- 外務 大臣 伯爵大隈重信

大日本帝國憲法

第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

- 海軍 大臣 伯爵西郷從道
- 農商務 大臣 伯爵井上馨
- 司法 大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍 大臣 伯爵大山巖
- 文部 大臣 子爵森有禮
- 遞信 大臣 子爵榎本武揚

- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルベキ勅令ヲ發ス
- 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スベシ若議會ニ於テ承諾セザルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スベシ
- 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズ
- 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ

及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ゲタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル

- 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
- 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
- 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス
- 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
- 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十五條 天皇ハ爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス
- 第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ズ
- 第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル
- 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ
- 第二章 臣民權利義務
- 第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應  
ジ均ク文武官ニ任ゼラレ及冀ノ他ノ公務ニ就クコト  
ヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義  
務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ  
義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移  
轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監  
禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判  
ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外  
其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、

コトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外  
信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナ  
シ

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨グズ及臣民タル  
ノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作  
印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所  
ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ゲタル條規ハ戰時又ハ國家事變  
ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨グルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ゲタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ



規律ニ抵觸セザルモノニ限り軍人ニ進行ス

八

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ズ

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及ビ各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ビ提出スルコトヲ得ズ

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得ザルモノハ同會期中ニ於テ再ビ建議スルコトヲ得ズ

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルベシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ

九

以テ新ニ議員ヲ撰舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ズ  
第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得  
第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員

自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ズ凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ズ

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安靈秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ

裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタ

ル行政裁判所ノ裁判ニ屬スベキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラズ

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラズ

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ベシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メザル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ベシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ズ

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クベカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クベシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集ス

ルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セズ又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上

出席スルコト非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ズ出席議員  
三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非ザレバ改正ノ議決ヲ  
爲スコトヲ得ズ

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ  
要セズ

皇室典範ヲ以テ此憲法ノ條規ヲ變更スル事ヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變  
更スルコトヲ得ズ

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタル  
ニ拘ラズ此ノ憲法ニ矛盾セザル現行ノ法令ハ總テ違  
由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ  
第六十七條ノ例ニ依ル

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシ  
メ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各々本法ニ依リ  
施行スヘキコトヲ命ズ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
- 樞密院議長 伯爵 伊藤博文
- 外務大臣 伯爵 大隈重信
- 海軍大臣 伯爵 西郷從道
- 農商務大臣 伯爵 井上馨
- 司法大臣 伯爵 山田顯義
- 大藏大臣 伯爵 松方正義
- 兼內務大臣
- 陸軍大臣 伯爵 大山巖
- 文部大臣 伯爵 森有禮

法律第二號

議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少ク  
トモ四十日前ニ之ヲ發布スベシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各  
議院ノ會堂ニ集會スベシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名  
ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スベシ  
議長副議長ノ勅任セラルマデハ書記官長議長ノ職  
務ヲ行フベシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ  
毎部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スベシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會

ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ  
行フベシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ  
行フベシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依  
ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ  
由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者  
ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事  
ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事  
務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カテズ

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク書記官長ハ勅任トシ書記官ハ委任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓衆議院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ケ但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ズ

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ズ

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ケ

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス  
特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ撰擧ス  
常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互撰

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サ

レハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス  
第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ  
第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得



第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ス

第二十九條 凡テ議案ヲ議議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サルハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スハシ

但兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラルハ

シ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ得ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用キスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラズ

第四十六條 常在委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス  
質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ勸議ヲ爲スコトヲ得  
第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奏呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得  
各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ勸議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレバ議題ト爲スコトヲ得ズ

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スベシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スベシ  
乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スベシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ  
甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スベシ若シ之ニ同意セ

ザルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムベシ  
甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院  
ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同  
數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スル  
トキハ議案ヲ政府ヨリ受取リ又ハ提出シタル甲議院  
ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スベシ  
協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ  
勳議ヲ爲スコトヲ許サズ

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時  
タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ  
得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サズ

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名  
投票ヲ用キ可非同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依

ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ  
各々一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其  
ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム  
第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規  
程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムベシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ  
紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルベシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之  
ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ  
議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ  
録シ毎週一回議院ニ報告スバシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スベシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ズ

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウベシ若請願ノ名義ニ依ラズ若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ズ

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ

政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ズ

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ズ

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セズ

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ズ

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ズ

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應ズベシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官  
廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ズ

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラ  
レ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得ザル職務ニ任セ  
ラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル  
被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シ  
タルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシ  
メ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スベシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シ  
タルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコト  
ヲ得ズ

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至

ルマデハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハズ但シ自  
身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ  
得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ズ

第十六章 請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ  
請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ  
議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スル  
コトヲ得ズ

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ  
届出ズシテ會議又ハ委員會ニ出席スルコトヲ得ズ

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得  
第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラズ衆議院議員ニ闕員ヲ  
生シタルキトハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉  
ヲ求ムベシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當座ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用キルコトヲ得又及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス  
第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員會ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ免ツ之ヲ委員ニ付シ審査  
セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長  
又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ  
以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再撰ニ當ル者ヲ拒ム  
コトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動  
議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタ  
ル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當  
ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ缺席スルニ由リ若  
ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ  
發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席  
セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シ  
テ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ



朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員撰舉法及附録ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ撰舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治廿二年二月十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆  
 樞密院議長伯爵伊藤博文  
 外務大臣伯爵大隈重信  
 海軍大臣伯爵西郷從道  
 農商務大臣伯爵井上馨  
 司法大臣伯爵山田顯義  
 大藏大臣伯爵松方正義  
 兼內務大臣伯爵大山巖  
 陸軍大臣伯爵森有禮  
 文部大臣伯爵森有禮

遞信 大臣子爵榎本武揚

法律第三號 衆議院議員撰舉法

第一章 撰舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ撰舉區ニ於テ之ヲ撰舉セシム其ノ撰舉區及各選舉區ニ於テ撰舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ撰舉區ノ撰舉ヲ監督ス一撰舉區ノ撰舉ハ郡長又ハ市長其ノ撰舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一撰舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ撰舉長タラシムハ

第四條 一市ノ域内ニ於テ數撰舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ撰舉長タラシムハシ

第五條 撰舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 撰舉人ノ資格

第六條 撰舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル  
第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被撰人ノ資格

第八條 被撰人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 官内官裁判官會計檢査官收稅官及警察官ハ被撰人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被撰人タルコトヲ得ス

第十一條 撰舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ撰舉區ニ於テ被撰人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被撰人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ撰舉セラルレ當撰ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 撰舉人及被撰人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白癡ノ者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
- 三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
- 四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サ

ル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被撰權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ服役中撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス

第五章 撰舉人名簿

第十八條 撰舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲ

シテ一ノ投票區域内ニ於テ撰舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

撰舉人名簿ハ撰舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ撰舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ区内ノ人名簿ヲ調製シ撰舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ

其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 撰舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ撰舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 撰舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル撰舉人名簿ヲ合シ一撰舉區ヲ以テ一冊トシ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 撰舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一撰舉區撰舉人名簿ヲ寫シ其ノ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ撰舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得  
縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 撰舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ

二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ撰舉長ノ判定ニ服セサルトキハ撰舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 撰舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判官渡書ニ依リ改正スヘキモノハ撰舉長ニ於テ其ノ直渡

審ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第六章 撰舉ノ期日及投票所

第三十條 撰舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時撰舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設ケルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ幾ナル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ  
立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル撰舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空處ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 撰舉人ハ撰舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至

リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各々一定ノ式ヲ用キ選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判官證書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルト

キハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ票投セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲タル投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官證書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ
- 四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス
- 五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用キ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ



其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用キタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區

役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴發アルトキハ

第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當

選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出

サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持

シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又

ハ此法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ免ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三

百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預  
置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ  
七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證  
金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ  
第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴  
訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ  
各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院  
ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ  
由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴  
ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處  
刑ノ官渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察

官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪  
者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキ  
ハ其ノ裁判官渡書ノ贈本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若  
衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ  
第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大  
審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ  
至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノノ外  
總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納稅額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要  
ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ

四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サハル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ

他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ

選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人

ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場

ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ

一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ

人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第二百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ處キニ從テ處斷ス

第二百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第二百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ

之ヲ掌ルヘシ

第二百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第二百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第二百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第一百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完





第七區  
石川郡 八上郡 古市郡 安宿部郡 錦部郡 丹南郡 志紀郡 丹北郡 大縣郡 澁川郡

一人

第一區 橫濱區 一人  
第二區 久良岐郡 一人  
第三區 南多摩郡 一人  
第四區 西多摩郡 一人  
第五區 北多摩郡 一人  
第七十三

一人 一人 一人 一人 一人

神奈川縣 議員總數七人

第六區  
茨城郡 交野郡 讚野郡 河內郡 若江郡 高安郡

一人

第八區 大塚郡 一人  
第九區 南根郡 一人

一人 一人

大阪府 總議員數十八

第六區  
加佐郡 與謝郡 中野郡 竹野郡 熊野郡

一人

第四區 西成郡 一人  
第五區 島下郡 一人  
第六區 豐島郡 一人  
第七區 能勢郡 一人

一人 一人 一人 一人

第五區  
南桑田郡 北桑田郡 船井郡 天鹿郡 何鹿郡

二人

第二區 東區 一人  
第三區 南區 一人

一人 一人

第四區  
宇治郡 久樂郡 相喜郡 綴郡

一人

第一區 西區 一人

一人

七十二

區九第	區八第	區七第
朝養二七出氣美城	安佐赤揖揖	禪神飾飾
來父方美石多合崎	粟用穗西東	西東西東
郡郡郡郡郡郡郡	郡郡郡郡郡	郡郡郡郡

二人

二人

一人

區四第	區三第	區二第	區一第
石壹北	南	北東	西長
田岐松	高來郡	高彼杵郡	彼杵區
郡郡郡	郡	郡	郡

七十五

一人

一人

一人

二人

長崎縣 議員總數七人

區十第
三津
原名
郡郡

一人

區一第	兵庫縣	區六第	區五第	區四第
神	議員總數十二人	足足淘大	津愛高	鎌三
戶		柄柄綾住	久甲座	倉浦
區		下上郡郡	井郡郡	郡郡
一人		一人	一人	一人

區六第	區五第	區四第	區三第	區二第
加多加	印加	美明八	氷多	有川菟武
西可東	南古	囊石部	上紀	馬邊原庫
郡郡郡	郡郡	郡郡郡	郡郡	郡郡郡郡

七十四

一人

一人

一人

一人

一人

區五第 南松浦郡 一人

區六第 上縣郡 一人  
下縣郡 一人

新潟縣 議員總數十三人

區一第 新瀧區 一人  
西蒲原郡 一人

區二第 北蒲原郡 二人  
東蒲原郡 一人  
巖船郡 一人

區三第 中蒲原郡 一人

區四第 南蒲原郡 一人

區五第 古志郡 二人  
三島郡 一人

區六第 刈羽郡 一人

區七第 北魚沼郡 二人  
南魚沼郡 一人  
中魚沼郡 一人  
東頸城郡 一人

區八第 中頸城郡 二人  
西頸城郡 一人

七十六

區九第 雜太郡 一人  
加茂郡 一人  
羽茂郡 一人

埼玉縣 議員總數八人

區一第 北足立郡 一人  
新座郡 一人

區二第 入間郡 二人  
高麗郡 一人  
橫見郡 一人  
比企郡 一人

區三第 南埼玉郡 二人  
北葛飾郡 一人  
中葛飾郡 一人

區四第 北埼玉郡 二人  
大幡里郡 一人  
榛羅郡 一人  
男袞郡 一人

區五第 兒玉郡 一人  
賀美郡 一人  
那珂郡 一人  
秩父郡 一人

群馬縣 議員總數五人

區一第 東群馬郡 一人  
南勢郡 一人  
利根郡 一人  
北勢郡 一人

區二第 新田郡 一人  
山田郡 一人  
邑樂郡 一人

七十七

區三第 南多綠耶佐  
甘胡野波位  
樂郡郡郡郡  
一人

區四第 吾片西  
妻岡群馬  
郡郡郡  
一人

區五第 確北甘  
氷樂  
郡郡  
一人

千葉縣 議員總數九人

區一第 市千  
原葉  
郡郡  
一人

區二第 南下印東  
相植旆葛  
馬生飾郡  
郡郡郡  
二人

區三第 香  
取  
郡  
一人

區四第 匝海  
瑳上  
郡郡  
一人

區五第 武山  
射邊  
郡郡  
一人

區六第 長上夷  
柄植隅  
郡生郡  
郡  
一人

七十八

區七第 天周望  
羽准陀  
郡郡郡  
一人

區三第 眞西  
壁茨  
郡城  
郡  
一人

茨城縣 議員總數八人

區一第 行鹿東  
方島茨  
郡郡城  
郡  
二人

區二第 那久多  
珂慈賀  
郡郡郡  
二人

區四第 猿西岡結豐  
嶋葛田城田  
郡飾郡郡郡  
郡  
一人

區五第 新筑  
治波  
郡郡  
一人

區六第 北河信  
相內太  
郡郡郡  
郡  
一人

栃木縣 議員總數五人

七十九

區一第	區二第	區三第	區四第
河內郡	上都賀郡 下都賀郡 寒川郡	安蘇郡 足利郡 梁田郡	鹽谷郡 那須郡
一人	二人	一人	一人
區一第	區二第	區三第	區四第
添上郡 添下郡 山邊郡 廣瀬郡 平群郡	式上郡 式下郡 十字市郡 高市郡 葛上市郡 葛下郡 忍海郡	式上郡 式下郡 十字市郡 高市郡	宇智郡 吉野郡
八人	一人	二人	一人

奈良縣 議員總數四人

區三第 吉野郡 一人

三重縣 議員總數七人

區一第	區二第	區三第	區四第
安濃郡	三重郡 鈴鹿郡 奄岐郡 河曲郡	桑名郡 員辨郡 朝日郡	飯高郡 飯野郡 多氣郡
一人	一人	一人	一人
區五第	區六第	區一第	區二第
度會郡 英志郡 北牟婁郡 南牟婁郡	阿拜郡 山田郡 名山郡 伊賀郡	名古屋區	愛知郡
二人	一人	一人	一人

愛知縣 議員總數十一人

區六第 區五第 區四第 區三第 區二第  
 龍引濱敷長 磐山 豐周 城佐 榛 益志 庵富  
 玉佐名知上 田名 田智 東野 原 津太 原士  
 郡郡郡郡郡 郡郡郡 郡郡郡 郡郡 郡郡

一人 一人 一人 一人 一人

區三第 區二第 區一第  
 南西東 北南東 中北西  
 巨八八 都都山 巨巨山  
 摩代代 留留梨 摩摩梨  
 郡郡郡 郡郡郡 郡郡郡

一人 一人 一人

山梨縣 議員總數三人

區七第  
 駿田君 賀郡  
 東方 澤茂 賀  
 郡郡郡 郡郡

二人

八十三

區七第 區六第 區五第 區四第 區三第  
 知 海海 中 葉丹 西東  
 多 西東 嶋 栗羽 春日井  
 郡 郡郡 郡 郡郡 郡郡

一人 一人 一人 一人 一人

區一第 區一十第 區十第 區九第 區八第  
 有安 八渥 寶南 東西 橋碧  
 渡倍 名美 飯設 加加 豆海  
 郡郡 郡郡 郡郡 茂茂 郡郡  
 靜岡縣 議員總數八人

一人 一人 一人 一人 一人

八十二

滋賀縣 議員總數五人

區一第 高滋 島賀 郡 郡 一人

區二第 栗野甲 太洲賀 郡 郡 郡 一人

區三第 犬愛神 上知崎 郡 郡 郡 二人

區四第 西淺井 東淺井 伊香田 郡 郡 郡 一人

岐阜縣 議員總數七人

八十四

區一第 厚見 務縣 郡 郡 一人

區二第 不破 安八 郡 郡 一人

區三第 海西 下石津 多石津 上石津 中栗 郡 郡 郡 一人

區四第 大野 池田 本巢 山田 郡 郡 郡 郡 一人

區五第 武上 郡 郡 一人

區六第 加可兒 惠土岐 郡 郡 郡 一人

區七第 大野 益田 吉城 郡 郡 郡 一人

長野縣 議員總數八人

區一第 水上 郡 一人

區二第 上下 高井 郡 郡 一人

區三第 小科 郡 郡 一人

區四第 西筑摩 東筑摩 南安曇 北安曇 郡 郡 郡 郡 二人

區五第 南佐久 北佐久 郡 郡 一人

區六第 上伊那 郡 一人

八十五

第七區 下伊那郡 一人

第四區 登栗原郡 一人

宮城縣 議員總數五人

第一區 仙臺區 一人

第五區 桃生郡 一人

福嶋縣 議員總數七人

第二區 刈田郡 一人

第一區 信夫郡 一人

第三區 加黑川郡 一人

第二區 安積郡 一人

第三區 田村郡 二人

巖手縣 議員總數五人

第一區 南巖手郡 一人

第四區 南會津郡 二人

第二區 東閉伊郡 一人

第五區 前多郡 一人

第三區 種實郡 一人



區二第 區一第 福井縣 區四第 區三第 區二第  
 阪吉 大足 議員總數四人 雄平仙 由河 鹿北山  
 井田 野羽 郡郡 勝鹿北 利邊 角秋本  
 郡郡 郡郡 郡郡 郡郡 郡郡 郡郡

一人 一人 二人 一人 一人

區三第 區二第 區一第 石川縣 區四第 區三第  
 鹿羽河 江能 石金 敦大遠三 丹今南  
 八島昨北 沼美 川澤 賀飯敷方 生立條  
 十九郡郡郡 郡郡 郡區 郡郡郡 郡郡郡

二人 一人 二人 一人 一人

區三第 區二第 區一第 青森縣 區五第 區四第  
 西中 南北 三下上東 議員總數四人 東西 氣膽江  
 津津 津津 戶北北 津輕郡 磐磐 仙澤刺  
 輕郡 輕郡 郡郡郡 郡郡 井井 郡郡郡

一人 一人 二人 一人 一人

區一第 秋田縣 區四第 區三第 區二第 區一第 山形縣  
 南秋田郡 議員總數五人 北最東西飽 西南東 西東南  
 村上山郡 田田海 置置賜 置置賜 村村山  
 郡郡 川川郡 郡郡 郡郡 郡郡 郡郡 郡郡

一人 一人 二人 一人 二人

區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
鹿美郡	邑安適	神齋出	飯大仁能	意秋嶋
足濃賀	智濃摩	門總雲	石原多義	宇鹿根
郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡

一人 一人 一人 二人 一人

區二第	區一第
和磐赤津	兒邑上御岡
氣梨阪高	島久道野山
郡郡郡	郡郡郡區

一人 二人

岡山縣 議員總數八人

區六第
知海穩岡
夫士地吉
郡郡郡

一人

區四第	區三第	區二第	區一第	富山縣	區四第
彌波郡	射水郡	下新川郡	婦上新川郡	議員總數五人	珠鳳洲至郡

一人 一人 一人 二人 一人

區三第	區二第	區一第	鳥取縣
日會汗	八久河氣高	智八八巖法邑	議員總數三人
野見入	橋米村多草	頭東上井美美	九
郡郡郡	郡郡郡郡	郡郡郡郡	十

一人 一人 一人

區八第 區七第 區六第 區五第 區四第  
 安沼深 龜御 豐 加 三三高  
 那隈津 羅調 田 茂 谿次田  
 郡郡郡 郡郡 郡 郡 郡郡郡

一人 一人 一人 一人 一人

區二第 大見阿  
 津島武  
 郡郡郡  
 九十三

一人

區一第 佐厚美吉  
 波狹彌敷  
 郡郡郡郡

二人

山口縣 議員總數七人

區九第 惠三奴甲神品蘆  
 蘇上可奴石治田  
 郡郡郡郡郡郡

一人

區六第 區五第 區四第 區三第  
 東東西西大興 阿哲川上 後小淺 下賀窪郷  
 北南北北西庭島 賀多上房 月田口 道陽屋宇  
 條條條條 郡郡郡郡 郡郡郡郡 郡郡郡郡 郡郡郡郡

一人 一人 一人 一人

區三第 區二第 區一第  
 山高沼 佐 安廣  
 縣宮田 伯 藝嶋  
 郡郡郡 郡 郡區

一人 一人 二人

廣嶋縣 議員總數十人

區七第 久米英吉勝勝  
 久米北田野南北  
 南條郡郡郡郡  
 九十二

一人

區三第 豐赤間 浦區 郡 一人

區四第 大熊都 嶋毛濃 郡郡郡 二人

區五第 玖珂 郡 一人

和歌山縣 議員總數五人

區一第 有海名和 田部草歌 郡郡郡區 二人

區二第 那伊 賀郡郡 一人

區三第 東西日 牟牟高 東牟高 郡郡郡 二人

德嶋縣 議員總數五人

區一第 勝名 浦東 郡郡 一人

區二第 海那 賀郡郡 一人

區三第 麻阿名 植波西 郡郡郡 一人

區四第 板野 郡 一人

區五第 三美 好馬 郡郡 一人

香川縣 議員總數五人

區一第 小山香 豆田川 郡郡郡 一人

區二第 三塞大 木川內 郡郡郡 一人

區三第 阿鶴 野足 郡郡 一人

區四第 那多 珂度 郡郡 一人

區五第 三豐 野田 郡郡 一人

愛媛縣 議員總數七人

區一第 和風早 氣泉 郡郡郡 二人

區二第 下伊久野 浮穴 郡郡郡 一人

區三第 周桑越 布村智 郡郡郡 一人

區四第	區三第	區二第
竹生山御御	穗嘉鞍遠	夜下上席御那宗續
野葉本原井	波麻手賀	須座座田笠珂像屋
郡郡郡郡郡	郡郡郡郡	郡郡郡郡郡郡郡

一人 一人 二人

區八第	區七第	區六第	區五第
上築仲京	田企	三山	下上三
毛城津都	川救	池門	妻妻瀨
郡郡郡郡	郡郡	郡郡	郡郡郡
一人	一人	一人	一人

大分縣 議員總數六人 九十七

高知縣 議員總數四人

區六第	區五第	區四第	區三第
北南	東西	宇新	上喜
宇宇	宇宇	宇新	上浮多
和和	和和	摩居	穴郡
郡郡	郡郡	郡郡	郡郡

一人 一人 一人 一人

區一第	區三第	區二第	區一第
早志怡福	安香	吾高幡	長土
真摩土岡	慶美	川岡多	岡佐
郡郡郡區	郡郡	郡郡郡	郡郡

一人 一人 二人 一人

福岡縣 議員總數九人

九十六

區一第 大分郡 一人

區六第 宇下佐毛郡 一人

區二第 北海部郡 一人

佐賀縣 議員總數四人

區三第 大野郡 一人

區一第 小神賀郡 二人

區四第 速見郡 一人

區二第 東松浦郡 一人

區五第 西國東郡 一人

區三第 杵島郡 一人

熊本縣 議員總數八人

區一第 熊本區 二人

區五第 八代郡 一人

區二第 玉名郡 一人

區六第 天草郡 一人

區三第 山鹿郡 二人

宮崎縣 議員總數三人

區四第 上益城郡 一人

區一第 宮崎郡 一人

區二第 北諸縣郡 一人

九十九

第三區 東白杵郡 西白杵郡 一人

鹿兒嶋縣 議員總數七人

第一區 鹿兒島郡 北山隅郡 大隅郡 一人

第二區 給黎郡 揖宿郡 穎娃郡 川邊郡 一人

第三區 日置郡 阿多郡 一人

第四區 高城郡 出水郡 南伊佐郡 薩摩郡 一人

第五區 菱刈郡 始原郡 桑原郡 西伊佐郡 北伊佐郡 一人

第六區 南諸縣郡 南大隅郡 肝屬郡 東嶺郡 一人

第七區 大嶋郡 一人

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆  
 樞密院議長伯爵伊藤博文  
 外務大臣伯爵大隈重信  
 海軍大臣伯爵西鄉從道  
 農商務大臣伯爵井上馨  
 司法大臣伯爵山田顯義  
 大藏大臣伯爵松方正義  
 兼內務大臣  
 陸軍大臣伯爵大山巖  
 文部大臣伯爵森有禮  
 遞信大臣伯爵榎本武揚

法律第四號  
會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租税及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始

ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一豫備金ハ避クヘカヲサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル



第八條 國庫豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 第軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂

ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓

ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ

一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會

ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ

事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第十七條

前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト

俱ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過  
圖後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求  
ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ  
免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期  
限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年  
度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ  
其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期  
滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ  
依ル

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額  
戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌  
年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度

內ニ終ルヘキ工事又ハ製造コシテ避クヘカヲサレ事  
故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終  
ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ  
得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ  
他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ  
毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スル  
コトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完  
結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收  
入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ  
依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返  
納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コ  
トヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ  
工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付ス  
ハシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定  
ニ依ルコトヲ得ヘシ

- 第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ  
又ハ借入ル、トキ
- 第二 政府ノ所爲ヲ祕密ニスヘキ場合ニ於テ命ス  
ル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ
- 第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲  
スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ  
生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接  
ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
- 第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得  
ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

- 第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ  
位置又ハ構造等ニ限アル場合
- 第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入  
ノ契約ヲ爲ストキ
- 第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フト  
キ
- 第九 軍艦ヲ買入ル、トキ
- 第十 軍馬ヲ買入ル、トキ
- 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買  
入ル、トキ
- 第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ傭役  
シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入  
ル、トキ
- 第十三 囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接  
ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工

工場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ  
買入ルヽトキ

第十四

政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育  
ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造  
物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工專製造又ハ物件  
買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル  
所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ  
會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ他ノ事故ニ由リ  
其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場  
合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカヲサリシ事實ヲ會  
計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非ザレ

ハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルヽコトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證  
金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ  
定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼  
ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノア  
ルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ  
第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スル  
コトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ  
明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノ

ハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス  
決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲  
計ヨリ施行ス  
第三十三條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各々其ノ條  
項施行ノ日ヨリ廢止ス

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ  
貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕力更  
ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆  
樞密院議長伯爵伊藤博文  
外務大臣伯爵大隈重信  
海軍大臣伯爵西郷從道  
農商務大臣伯爵井上馨  
司法大臣伯爵山田顯義  
大藏大臣伯爵松方正義  
兼內務大臣伯爵大山巖  
陸軍大臣伯爵森有禮  
文部大臣伯爵森有禮

勅令第十一號

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接

國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルベシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ

各々其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以

テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各々總數ノ五分ノ一ヲ超過スベカラズ

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ

男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルベシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地

或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人

ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル

者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルベシ其ノ選舉ニ關

ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於

テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者

ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スル  
コトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル  
條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ萬ノ議員ノ資格及撰舉ニ關ル爭訟ヲ  
判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定  
シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代  
限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除  
名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上  
奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ  
議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以

テ勅任セララルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルト  
キハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ  
條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スル  
トキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ



明治二十二年二月二十八日 印刷  
明治二十二年三月二日 出版

著者 石川縣金澤區上今町四十八番地  
小坂作平

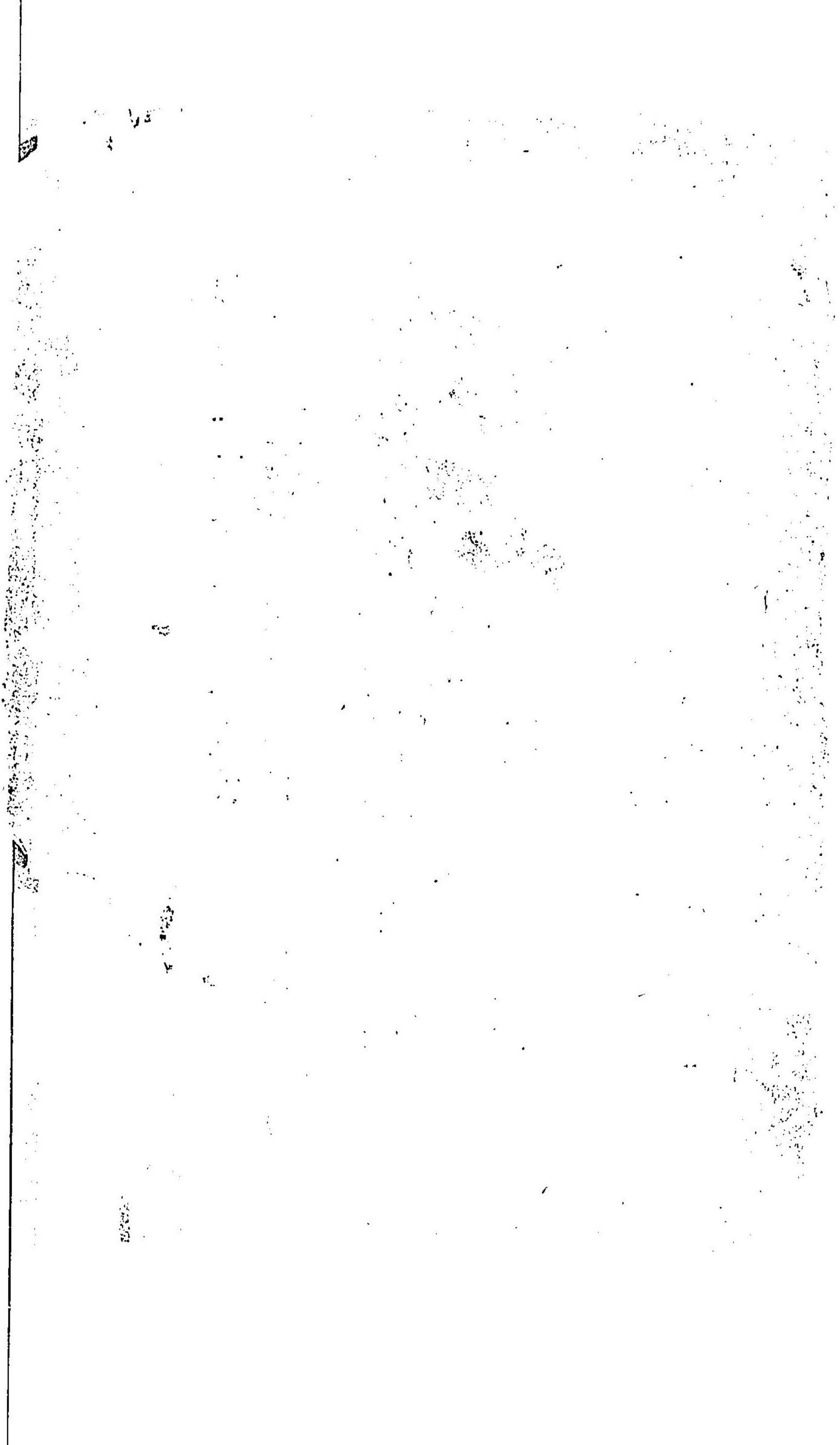
發行者 石川縣金澤區尾張町五番地  
牧野一平

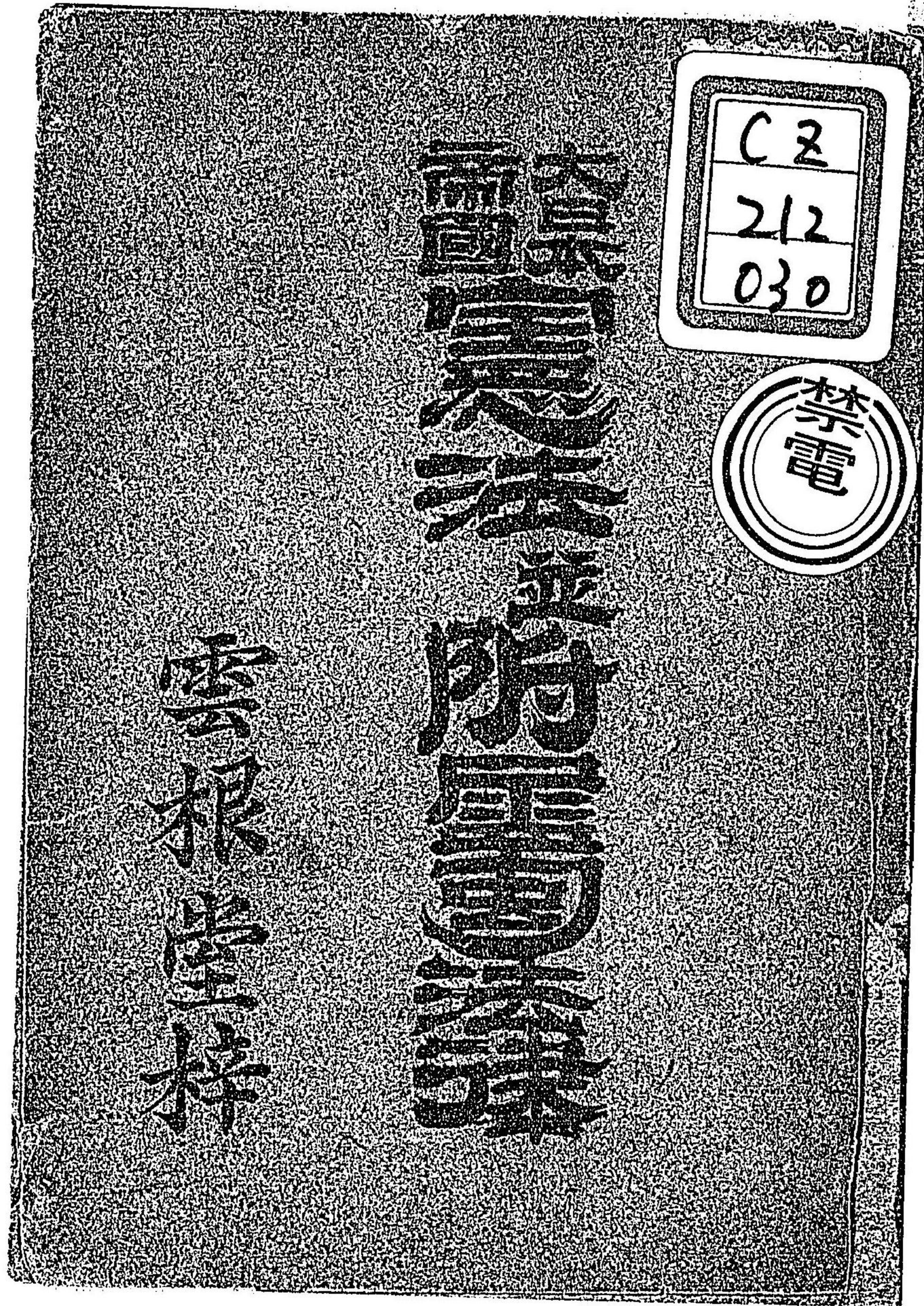
印刷者 石川縣金澤區高岡町四十四番地  
紺藤次三郎

石川縣金澤區尾張町五番地

大賣捌所 雲根堂

各于縣下代理大賣捌所





031685-000-7

CZ-212-030

大日本帝国憲法並附属法律

小坂 作平 / 編

M22

BBE-0312

